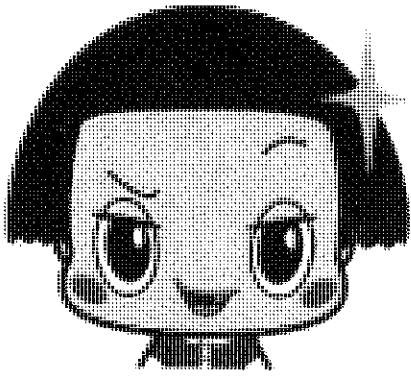




# 社長のひとり言

チコちゃんに叱られる

最近NHK総合の高視聴率が  
続く雑学クイズ「チコちゃんに叱か  
られる」を時間が合えば孫と一緒に  
に見ています。人が何気なく過して  
いる中であらなまって所質問されると  
答えられない事が多く有ります。

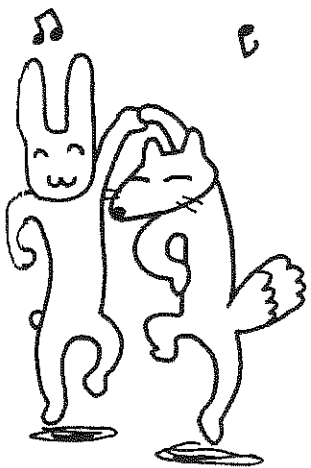


その時チコ  
ちゃん「ボ  
と垂きてんじ  
わーよ！」と  
叱かってくれ  
私「そこで  
自分なりに

日頃から疑問に思っている事を  
皆さんにお聞きしたいと思えます。  
私の考えをお読み頂いてから、これは  
どうなのか(?)見解をお教え下さい。  
その一つは、自然界は何故男女を  
造ったのでしょうか。私の知る限り  
では、其々の無い所を補うように  
造られていると云われている事です。  
確かに男性と女性とでは、体つき  
が異なることはもちろんの事、  
其々に役割があつて男女が一つに  
なつて初めて人間としての役割を  
果たせるのだと云われています。又、  
この世では其々の役割を果たして  
人(霊止)として成長して行く事が人  
に与えられた使命だと云われています。

その使命と果たすには、昔から  
連続として続いて来た男女が  
成人し、結婚して、子供が授かり、育て  
て行く中に、それがあるのではないかと  
思います。人はついつい自分の都合  
の良しように、勝手な物事と解釈  
して進んでいいますが、自然の摂理  
に逆らうかのようにする事が決定的  
に、幸せな生活を送り続けることが  
出来ないのでないかと思いますが  
如何でしょう？

H31.2.19記



# 寄りみち

言葉と大事にしなから暮らす

言葉には不思議な魅力がある。例えは歌や詩をじっくり味わう様に読んでみる。そんな時間を持つことで、段々言葉の奥に秘められた思いが理解できるようになる。幸に、自分なりにどんな言葉を使うだろう(?)他の言葉に置き換えたりどうなるだろう(?)など、自分に問いかけてると、表現力も豊かになって行くものではないだろうか?今の世、きれいな言葉を使っても、早口で話す人が大変多い。言葉の基本は「伝える」という事。言葉にも「間合」という余白は必要かと...

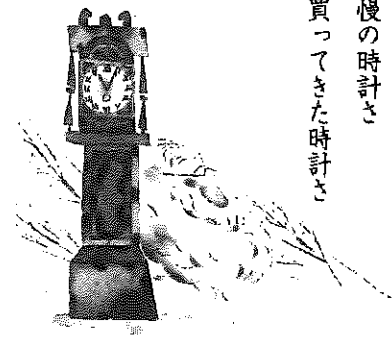
言葉の流れやバランス、調和と意識しなから語る。そうした習慣づけが「美しい日本語」とを生むように思う。脳のソフトウエアは、五感とまぶした言葉を積極的に使うことで磨かれて行くに違いない。

誰もが知っている童謡

## 大きな古時計

作詞・作曲 ワーク / 訳 保宮康年

大きなのっぽの古時計 おじいさんの時計  
百年いつも動いていた ご自慢の時計さ  
おじいさんの生まれた朝に 買ってきた時計さ  
今はもう動かない その時計  
百年休まずに  
チクタク チクタク  
おじいさんといっしょに  
チクタク チクタク  
今はもう動かない その時計



長い間、チクタク、チクタクと動いていた時計が二度と動かなくなった。このことにより、せくしたおじいさんの別れの切なさ、伝わってくる。

## 私と小鳥と鈴と

詩 金子みすゞ

私が両手をひろげても、  
お空はちつとも飛べないが、  
飛べる小鳥は私のように、  
地面を速くは走れない。  
私がかからだをゆすつても、  
きれいな音は出ないけど、  
あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ。  
鈴と、小鳥と、それから私、  
みんならがつて、みんないい。

優しさに溢ちあふれた詩

金子みすゞさんの代表作

「みんならがつて」と、連うこと

を認め合う気持ちをは表われ

「みんないい」という言葉

が、一層強く心に残ります。

おとこ



早春賦

Andantino ♩ = 116

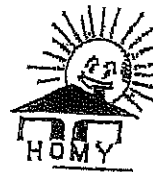
吉丸一昌 作詞  
中田 章 作曲

mf

はるはなのみのかぜのさむさやーた  
 にのうぐいすうたはおもえどーと  
 きにあらずとこえもたーてずーと  
 きにあらずとこえもたーてずー

pp rit.

四季ある日本!  
 そこに住む私たちの  
 暮らし方を今一度  
 見つめ直して  
 みませんか?  
 ホミー教室



NPO全国組織 内閣府認定  
 学校を家庭環境をつくる会 三重支部  
 ホームスタディグループ (HSG)  
 〒610-0880 三重県四日市市小古普1丁目1番7号  
 TEL (053) 845-0726 FAX (053) 845-0745  
 E-mail: hst@hsg.or.jp

1 春は名のみの 風の寒さや  
 谷の鶯 歌は思えど  
 時にあらずと 声も立てず  
 時にあらずと 声も立てず

2 氷解け去り 葦は角ぐむ  
 さては時ぞと 思うあやにく  
 今日もきのうも 雪の空  
 今日もきのうも 雪の空

3 春と聞かねば 知らでありしを  
 聞けば急かる 胸の思を  
 いかせよとの この頃か  
 いかせよとの この頃か

